

第 4 回「多チャンネル放送市場・事業者予測調査」結果発表

衛星放送事業者を対象とした市場の予測に関するアンケート
マーケットの展望には楽観論がさらに広がる

多チャンネル放送研究所(所長:林尚樹)は、第4回目となる「多チャンネル放送市場・事業者予測調査」を実施しました。これは、同研究所が(社)衛星放送協会の正会員社の各チャンネルを対象に、多チャンネル放送マーケットの現状と先行き見通しについて調査するものです。

本調査では、『現状』、『1年後』、デジタル放送への完全移行が予定されている『2011年』という3つの時点について、会員各社が多チャンネルマーケットの動向をどのように捉えているかを聞いています。この結果、衛星放送事業者の加入者数、視聴率収入についての見通しは、楽観派、悲観派に分かれるものの、全体として楽観的な見方が拡大していることがわかりました。一方で、広告、事業収入についての期待感も強まっていることが明らかになりました。

多チャンネル放送研究所では、今後も同調査を定期的実施し、会員各社の多チャンネル放送のマーケット観を立体的に捉えていく方針です。

■調査結果の概要

1. 自社チャンネルの加入者は「増加傾向」が基調。『11年時点』で「横ばい」見通しも

自社チャンネルの加入者予測の全体動向について見ると、まず『現状』では「増加傾向」(51.5%)、「減少傾向」(25.8%)、「横ばい」(18.0%)と続く構成になった。『1年後』でもこの傾向は変わらない。『2011年時点』で、「増加」が過半数を越えているが、「横ばい」が22.7%と5ポイント程度増えている。一方で「減少」が16.7%と5ポイント程度減っている。

2. 多チャンネル放送全体の加入者は自社の見通しより楽観的

次に多チャンネル放送市場全体の加入者動向について各事業者の予測を尋ねた。『現状』では、回答が「増加傾向」(53.0%)、「横ばい」(39.4%)、「減少傾向」(7.6%)の順番になった。『1年後』『2011年時点』でもほぼ同様の構成になった。自社チャンネルの加入者動向に比べ全体的に「減少傾向」が少なく、多チャンネル放送市場全体の動向に関しては、事業者がより楽観的な見方をしているとみえる。

3. 自社の視聴料収入の減収を予測する事業者が少なくないが、全体としては楽観的。

自社チャンネルの視聴料収入の全体の動向では、『現状』、『1年後』、『2011年時点』を通して「増加傾向」が最も多く、収入増を予測している事業者が多いことがわかる。特に11年に向かって視聴料収入増を期待している事業者が増え、『11年時点』では過半数を越えている。また、『1年後』『11年時点』では4.5%だが「大幅増」とみる事業者もでてくる。

しかし「減少傾向」と回答する事業者が『現状』では3割、『1年後』でも全体のほぼ4分の1の24.2%、

『2011 年時点』でも 18.2 を占めていることにも注意が必要だ。

4. 『2011 年時点』に向けて広告に高い期待感

自社チャンネルの広告収入の予測では、『現状』では「横ばい」という回答が最も多く、これに「増加傾向」が続いている。『1 年後』では、「横ばい」が最も多いが、「増加」と拮抗、『2011 年時点』では「増加」が 45.5%と最も多くなり、「横ばい」の 28.8%と大幅に差がつく。一方、「減少」は減っていく傾向が見られる。

5. その他事業収入は 1 年後には増加

自社チャンネルのその他事業収入においては、『現状』では「横ばい」がもっとも多く 57.6%、次いで「増加」が 27.3%と続く。『1 年後』では「増加」が 43.9%と最も多くなり、「横ばい」は 34.8%に下がる。「増加傾向」は、『2011 年時点』でさらに増えて 48.5%となる。半面、「横ばい」が 28.8%まで落ちる。

■調査の概要について

- 1.調査時期 2009 年 9 月
- 2.調査対象 衛星放送協会正会員社の CS 有料チャンネル(97 チャンネル)
- 3.調査方法 郵送法
- 4.回答回収数 66 チャンネル
- 5.回答回収率 68%

■調査結果詳細

自社チャンネルの加入者動向

1. 全体動向

自社チャンネルの加入者予測の全体動向について見ると、まず『現状』では「増加傾向」(51.5%)、「減少傾向」(25.8%)、「横ばい」(18.0%)と続く構成になった。『1 年後』でもこの傾向は変わらない。『2011 年時点』で、「増加」が過半数を越えているが、「横ばい」が 22.7%と 5 ポイント程度増えている。一方で「減少」が 16.7%と 5 ポイント程度減っている。

図1. 現状

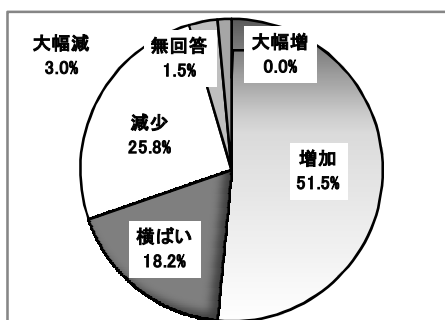


図2. 1 年後

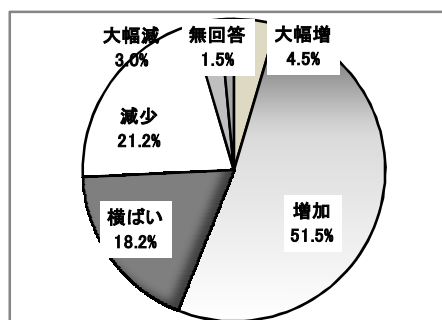
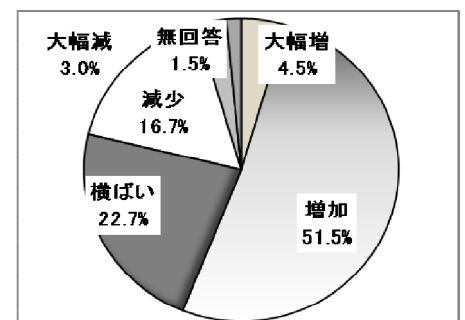


図3. 2011 年時点

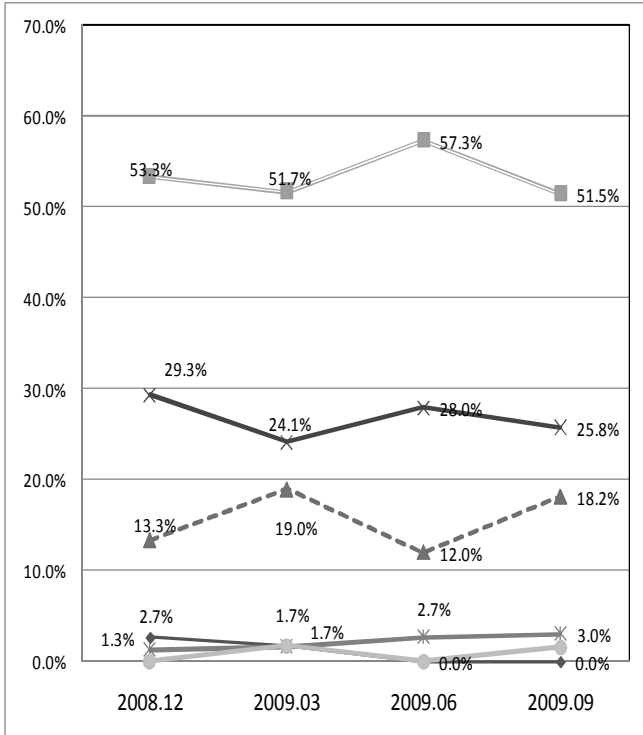


2. 全体動向の推移

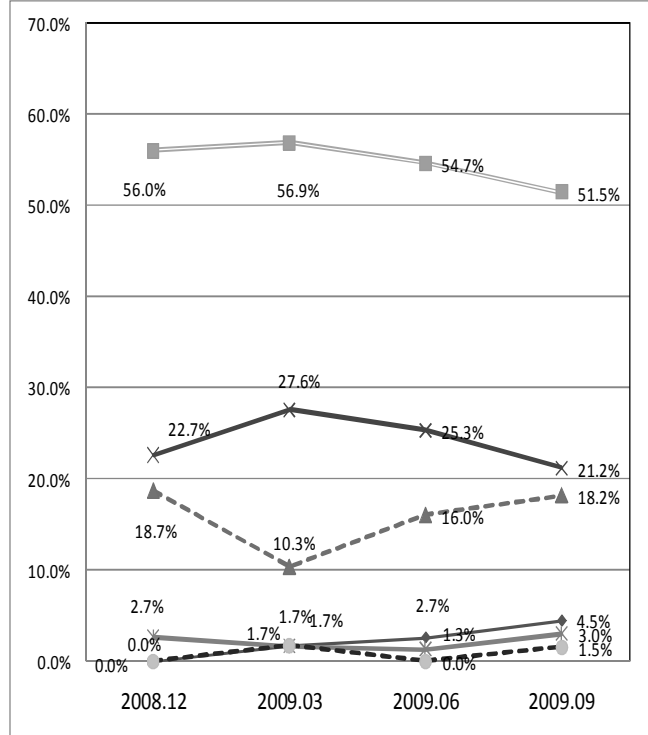
自社チャンネルの加入者動向を、前回調査の結果と比較した。前回調査に比べると、『現状』では「増加傾向」と「減少傾向」がやや減り、「横ばい」が6ポイントほど増えた。

『1年後』では、「増加」「減少」が微減、「横ばい」が6ポイントほど増えた。また、「大幅増」も4.5%まで増えた。『2011年時点』でも、「大幅増」は同様な傾向をみせており、2011年に向けて自社加入者予測について楽観的な期待が強くなっていることがわかる。

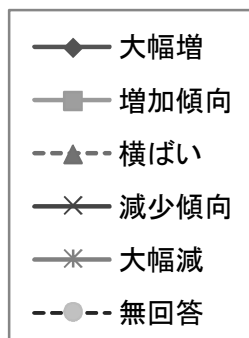
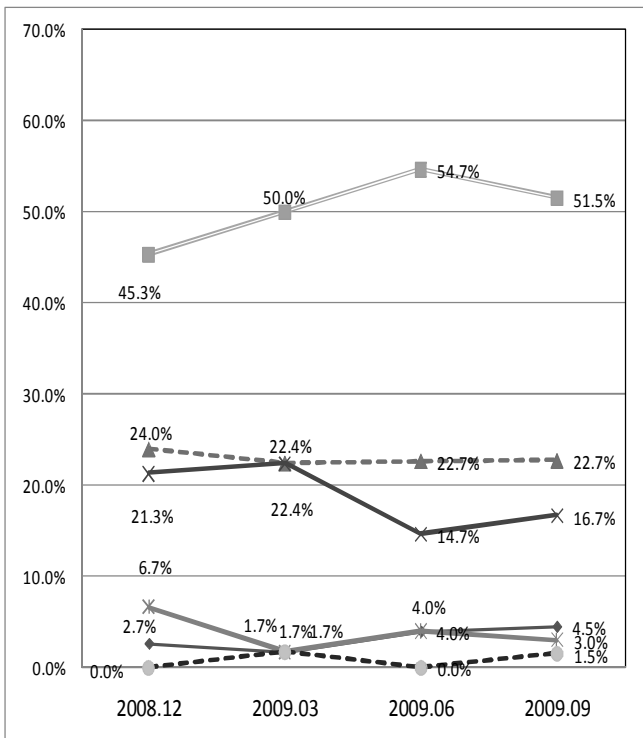
自社加入者数予測(現状)―前回調査との比較



自社加入者数予測(1年後)―前回調査との比較



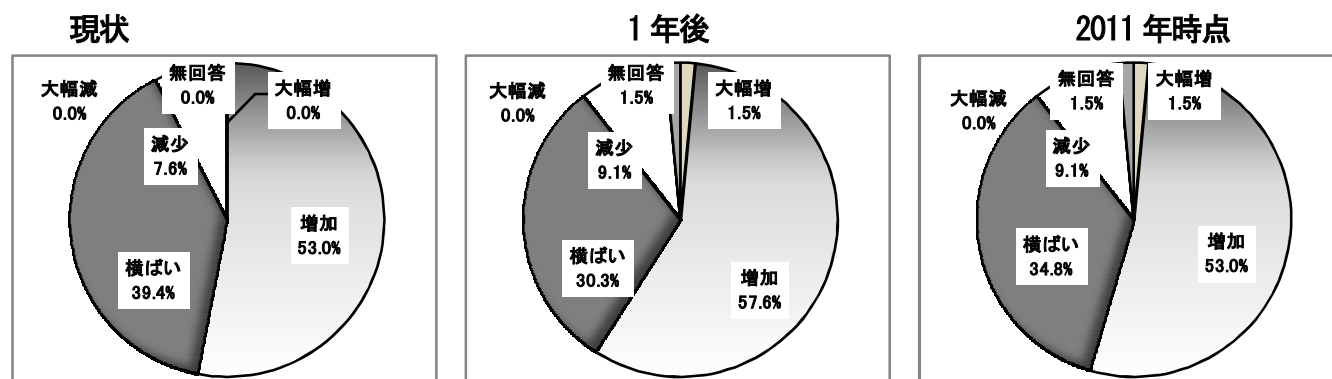
自社加入者数予測(2011年)―前回調査との比較



B.多チャンネル放送全体の加入者動向

1. 全体動向

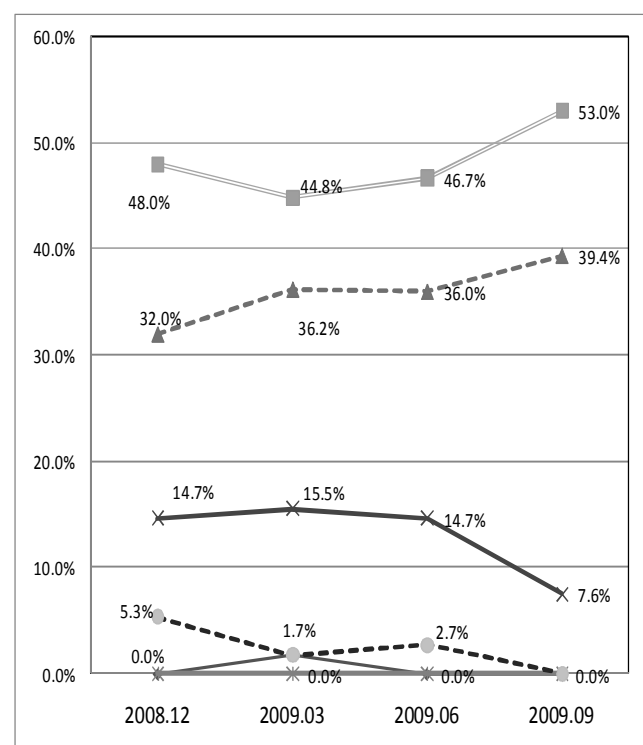
次に多チャンネル放送市場全体の加入者動向について各事業者の予測を尋ねた。『現状』では、回答が「増加傾向」(53.0%)、「横ばい」(39.4%)、「減少傾向」(7.6%)の順番になった。『1年後』『2011年時点』でもほぼ同様の構成になった。自社チャンネルの加入者動向に比べ全体的に「減少傾向」が少なく、多チャンネル放送市場全体の動向に関しては、事業者がより楽観的な見方をしているともいえる



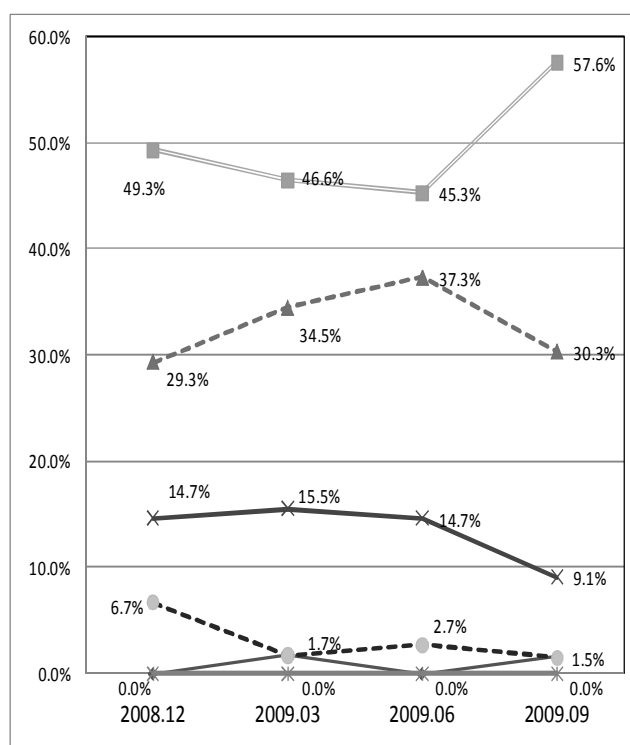
2. 多チャンネル放送全体についての予測推移

多チャンネル放送全体の加入者予測の推移をみると前回調査と比べて、『現状』では、「減少傾向」が減り、「増加」や「横ばい」が増える傾向にある。また『1年後』では、「増加」が12ポイント急増、「減少」や「横ばい」が減る。『11年時点』では、「増加」が微増、「横ばい」も5ポイントほど増やした。反面「減少」が4ポイント程度減少した。

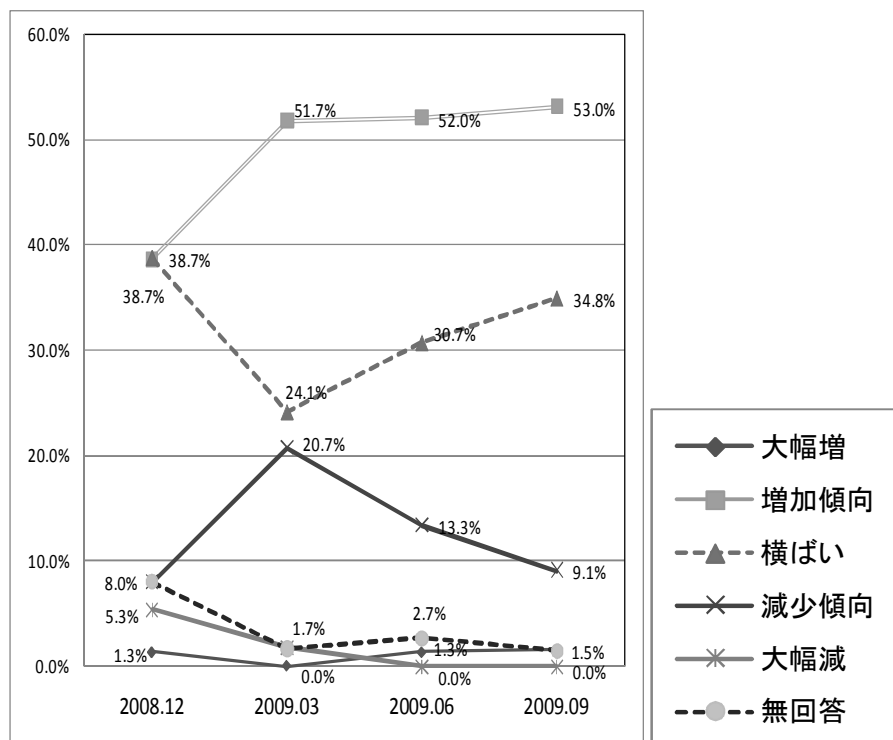
市場全体加入者数予測(現状)―前回調査との比較



市場全体加入者数予測(1年後)―前回調査との比較



市場全体加入者数予測（2011 年）—前回調査との比較

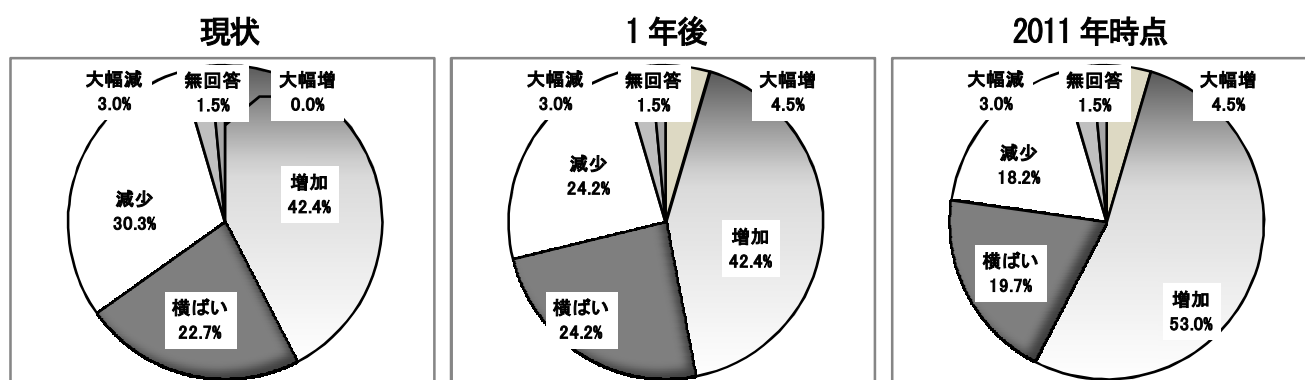


[2]視聴料収入

1. 全体動向

自社チャンネルの視聴料収入の全体の動向では、『現状』、『1年後』、『2011 年時点』を通して「増加傾向」が最も多く、収入増を予測している事業者が多いことがわかる。特に11 年に向かって視聴料収入増を期待している事業者が増え、『11 年時点』では過半数を越えている。また、『1 年後』『11 年時点』では4.5%だが「大幅増」とみる事業者もでてくる。

しかし「減少傾向」と回答する事業者が『現状』では3 割、『1 年後』でも全体のほぼ4 分の1 の24.2%、『2011 年時点』でも18.2 を占めていることにも注意が必要だ。

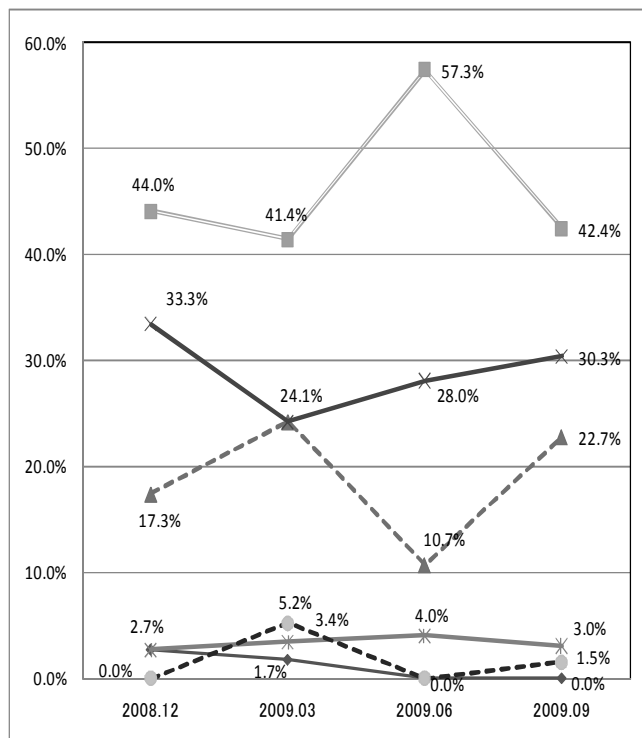


2. 自社チャンネル視聴料予測の推移

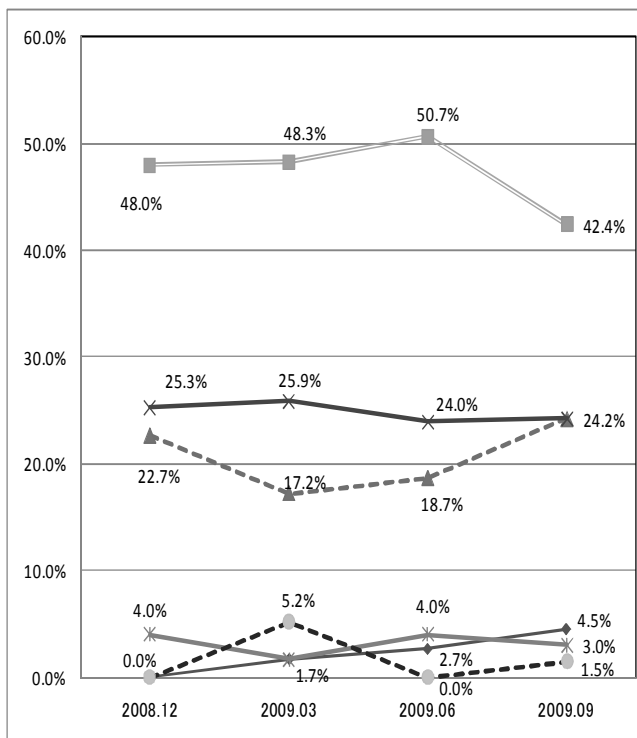
『現状』『1 年後』では、「増加」が最も多いが、前回調査に比べ大幅にさげており、反面「横ばい」が上昇

している。『現状』ではまた「減少」も微増。『1年後』では、「横ばい」が5ポイントほど増えた。『11年時点』では、「減少」が4ポイントほど増えている。

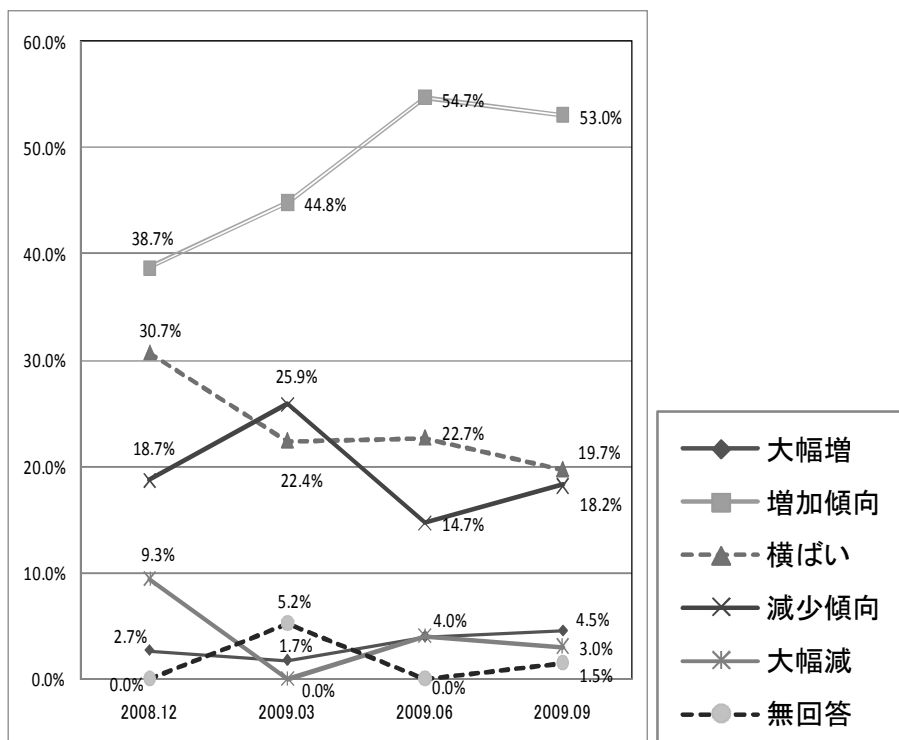
自社収入予測（現在）—前回調査との比較



自社収入予測（1年後）—前回調査との比較



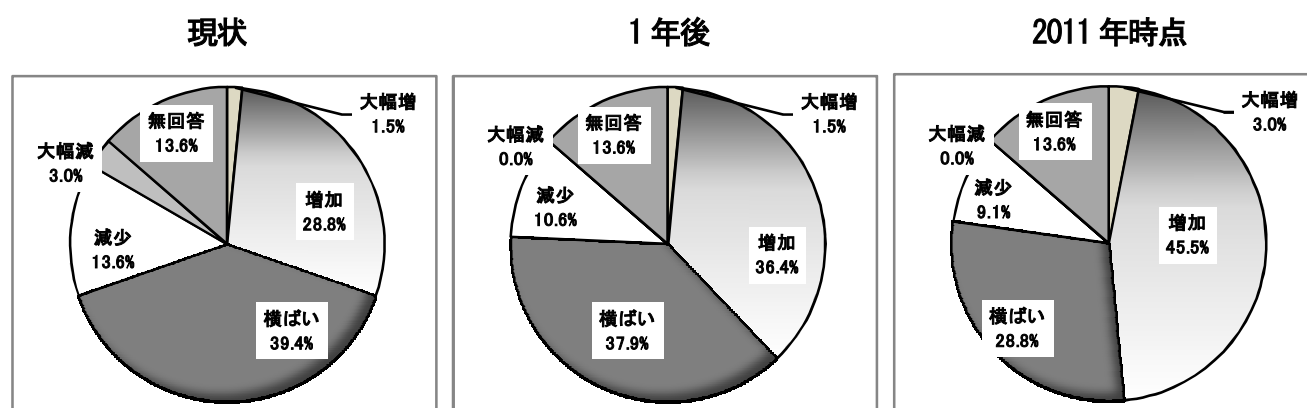
自社収入予測（2011年）—前回調査との比較



[3] 広告収入 自社チャンネル

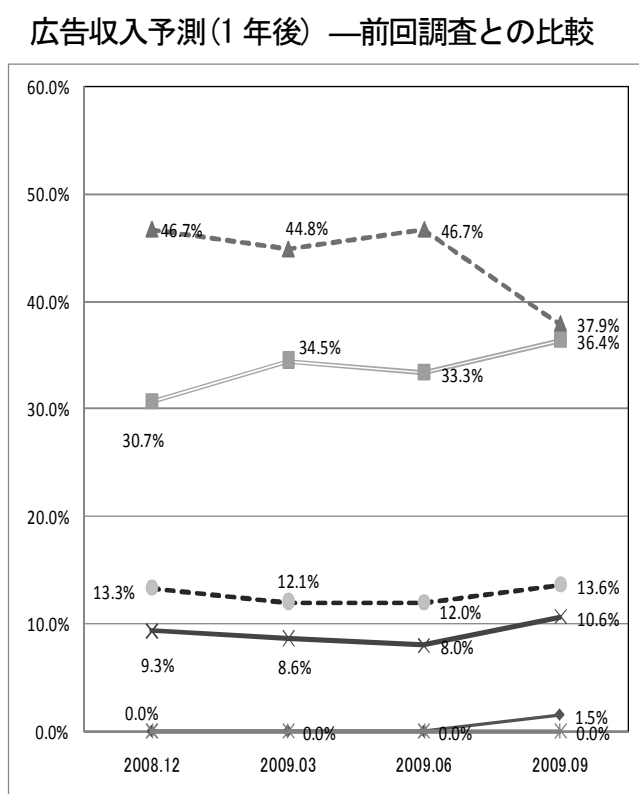
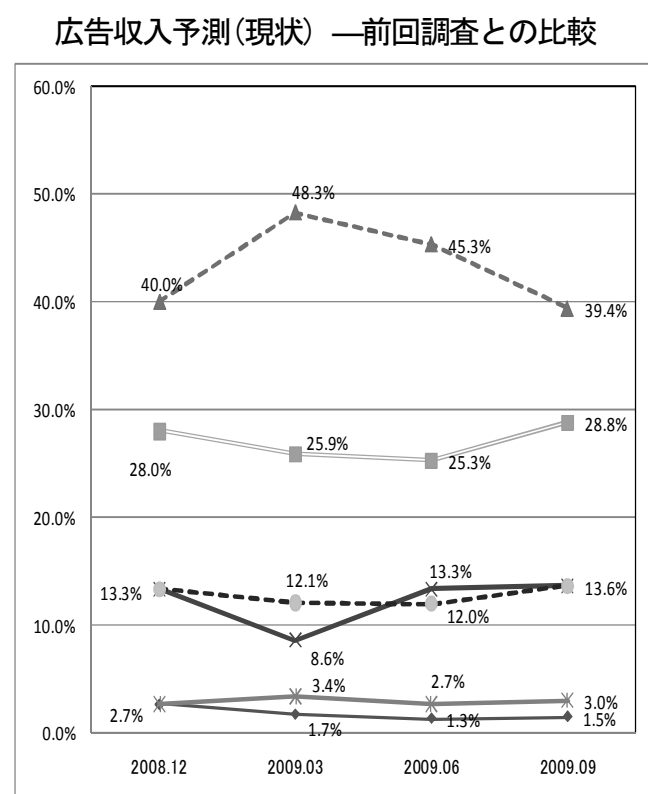
1. 広告収入の動向

自社チャンネルの広告収入の予測では、『現状』では「横ばい」という回答が最も多く、これに「増加傾向」が続いている。『1年後』では、「横ばい」が最も多いが、「増加」と拮抗、『2011年時点』では「増加」が45.5%と最も多くなり、「横ばい」の28.8%と大幅に差がつく。一方、「減少」は減っていく傾向が見られる。無回答が1割強あるが、有料放送主体の多チャンネル放送には広告のないチャンネルもあることに留意すべきである。

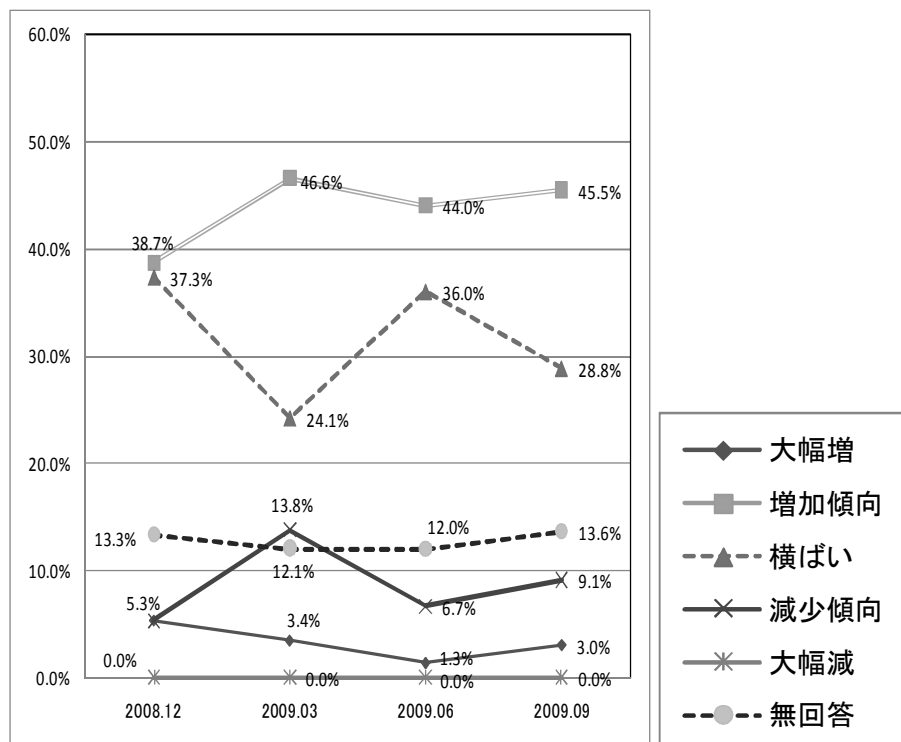


2. 広告収入予測の推移

広告収入に関する回答結果を前回調査と比べると、『現状』では大きな変化はない。しかし『1年後』では「増加」が微増、「横ばい」が減らして拮抗した。『2011年時点』は、前回よりも「減少」が減り、「横ばい」が12ポイントほど急増した。『11年時点』では、これまでの厳しい見方が若干和らいだともみることができる。



広告収入予測(2011 年) —前回調査との比較



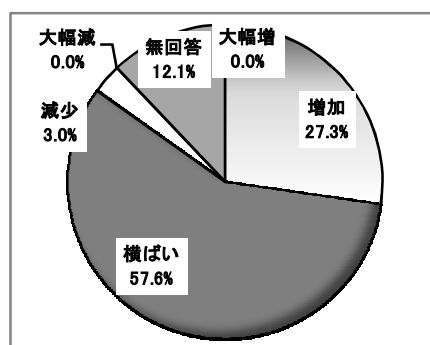
[4]その他事業収入 自社チャンネル

1. その他事業収入

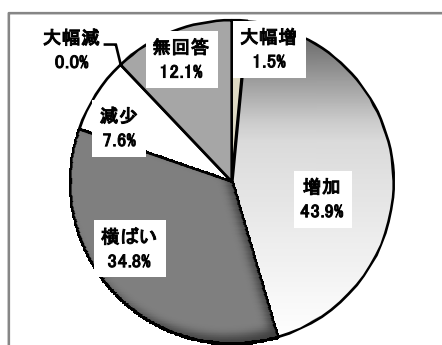
自社チャンネルのその他事業収入においては、『現状』では「横ばい」がもっとも多く 57.6%、次いで「増加」が 27.3%と続く。『1年後』では「増加」が 43.9%と最も多くなり、「横ばい」は 34.8%に下がる。「増加傾向」は、『2011 年時点』でさらに増えて 48.5%となる。半面、「横ばい」が 28.8%まで落ちる。

ただし、本項目でも「無回答」が多く注意が必要である。本項目該当の事業収入がないチャンネルもあることに注意すべきであろう。

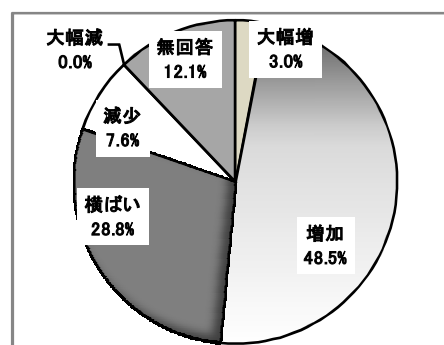
現状



1 年後



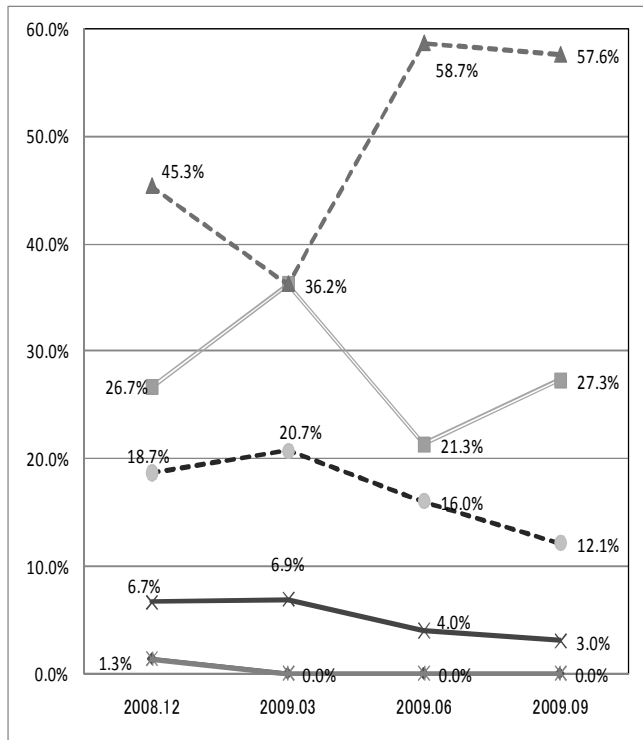
2011 年時点



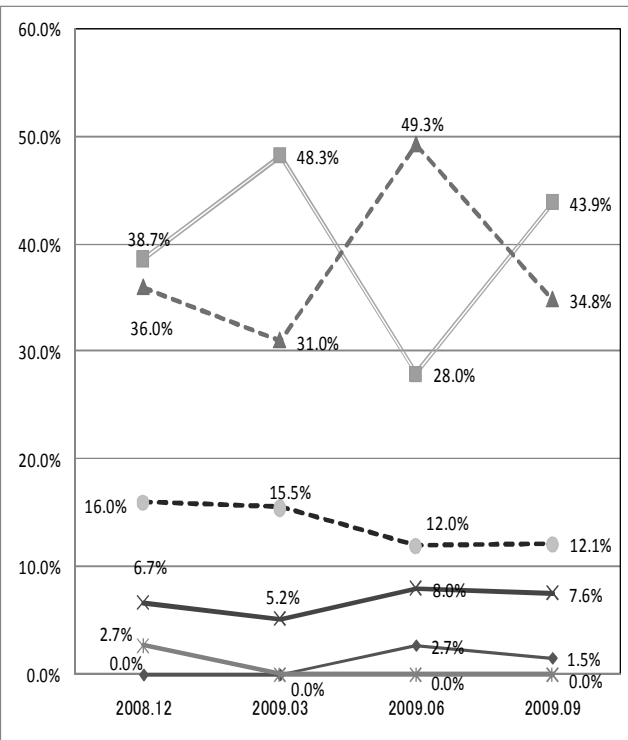
2. その他事業収入予測の推移

前回調査に比べて『現状』では「横ばい」のポイントが大幅に増え、入れ替わるように「増加」がポイントを減らした。『1年後』でも同様の傾向がみられる。『2011年時点』については、前回調査と比べて大きな変化は見られなかった。

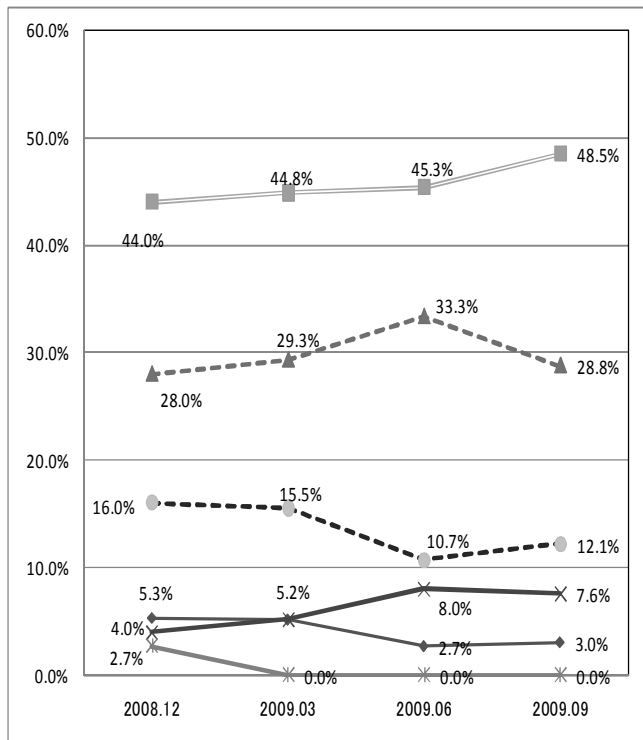
その他収入予測（現状） — 前回調査との比較



その他収入予測（1年後） — 前回調査との比較



その他収入予測（2011年） — 前回調査との比較



- ◆— 大幅増
- 増加傾向
- -▲- - 横ばい
- ×— 減少傾向
- ※— 大幅減
- -●- - 無回答